

令和2年度 生徒学校アンケート《付属中》結果のまとめ(「思う」と「やや思う」の割合)
令和2年12月 1日実施

NO	質問項目	H28	H29	H30	R元	R2	平均
A	よくわかる授業で学力がついてきた。	86%	88%	82%	90%	95%	88%
B	生徒指導が徹底され、落ち着いた学校生活が送れている。	77%	90%	78%	69%	94%	82%
C	学校の進路指導を信頼している。	72%	86%	84%	69%	76%	77%
D	クラブ活動を通して学ぶことが多い。	83%	80%	91%	91%	80%	85%
E	学校行事の盛んな学校である。	95%	96%	95%	94%	88%	94%
F	挨拶をよくするようになった。	77%	82%	83%	79%	94%	83%
G	マナーや学校のルールを大切にしている。	87%	97%	93%	92%	93%	92%
H	家庭学習の時間が増え、学習の習慣が身についてきた。	73%	76%	78%	92%	81%	80%
I	ボランティア活動には積極的に参加している。	59%	51%	36%	48%	53%	49%
J	学校に行くことは楽しい。	77%	77%	80%	79%	83%	79%
K	学校の施設・設備は整っている。	80%	84%	76%	83%	78%	80%
L	先生方は生徒に対して適切な対応をしている。	87%	92%	85%	83%	84%	86%
M	学校のホームページはよく見る。	37%	45%	30%	34%	31%	35%
N	学校の連絡文書は必ず保護者に渡すようにしている。	94%	91%	91%	94%	90%	92%
		77%	81%	77%	78%	80%	79%

評価分析

好意的評価の平均値は80%となり、例年並みだが、生徒の評価が初めて保護者の評価79%を上回った。保護者の評価の方が高まりがちなのは、学校への期待値が評価の中に入り込んでいるからだろう。それがない分、生徒は素直、つまり辛口である。そういう意味で、この逆転の意味は大きい。

付中の好意的評価は90%を超える項目もかなりあり、こうなるといっそ「思う」の評価だけにしぼった総括に切り替え、もっと厳しい目で反省できるようにした方が改善策を講じやすいのではないかと考える。

昨年、Bの生徒指導の評価が70%を割り、指導の在り方を含め、改善すべき一番の項目に挙げていたが、みごと回復し、Aの授業とともに95%前後の高い評価になった。コロナ禍にありながら教職員の努力の証である。また、Fの挨拶やJの学校が楽しいも、過去最高の評価となり、生徒が学校で充実した時間を過ごしていることがうかがえる。

D・Eは、コロナ禍による影響の結果であるとして、Hの家庭学習がもの足りない。コロナ禍で校外活動や交流活動ができない分、家庭学習を含め自学の取り組みを勧めてきただけに残念な結果である。Kの学校設備は、ICT機器、特に個人用タブレットの使用について、中3生が未取得である点、不満が大きいのではと推測される。来年度以降、個人用端末の普及が一気に進むので、この点は大きく改善が進むだろう。

令和2年度 生徒学校アンケート《普通科》結果のまとめ(「思う」と「やや思う」の割合)

令和2年12月 1日実施

NO	質 問 項 目	H28	H29	H30	R元	R2	平均
A	よくわかる授業で学力がついてきた。	55%	57%	63%	61%	88%	65%
B	生徒指導が徹底され、落ち着いた学校生活を送れている。	60%	60%	66%	58%	89%	67%
C	学校の進路指導を信頼している。	67%	65%	68%	64%	89%	71%
D	クラブ活動を通して学ぶことが多い。	62%	63%	67%	66%	75%	67%
E	学校行事の盛んな学校である。	64%	58%	67%	63%	80%	66%
F	挨拶をよくするようになった。	68%	63%	73%	65%	88%	71%
G	マナーや学校のルールを大切にしている。	82%	83%	84%	81%	96%	85%
H	家庭学習の時間が増え、学習の習慣が身についてきた。	34%	31%	34%	37%	67%	41%
I	ボランティア活動には積極的に参加している。	61%	17%	18%	18%	39%	31%
J	学校に行くことは楽しい。	61%	58%	66%	65%	80%	66%
K	学校の施設・設備は整っている。	52%	45%	54%	47%	70%	54%
L	先生方は生徒に対して適切な対応をしている。	52%	58%	62%	56%	80%	62%
M	学校のホームページはよく見る。	12%	12%	18%	11%	27%	16%
N	学校の連絡文書は必ず保護者に渡すようにしている。	76%	73%	78%	79%	88%	79%
		58%	53%	58%	55%	75%	60%

評価分析

好意的評価の平均値は75%に達し、昨年比20%もの特筆すべき上昇を記録した。項目別に見ると、全14項目中8項目において、それぞれ20%以上の上昇があった。この結果から、普通科の改善が一気に進み、生徒はここ数年で最も落ち着きのある学校生活を送れていると言える。特に、Aの授業、Bの生徒指導、Cの進路指導で、そろって90%に迫る評価となったことは、注目に値する。この点からだけでも、生徒の満足度がうかがえるし、充実した学校生活が想像される。

今回の結果に安住しないよう、来年度以降、付中や六年制同様、総括の評価対象を「思う」だけに絞って、もっと厳しい目で反省し、改善につなげていけるようにしたい。

EやIの学校行事やボランティア活動については、コロナ禍によって多くの活動が中止となったにもかかわらず、評価が高まっている。これは、楽学祭等で生徒を中心に企画し開催できたこと、自主的協働的な取り組みができたことに対する生徒の自己評価と考えていいだろう。

来年度以降、政府のGIGAスクール構想の下で本校のICT化も一気に進む。個人用タブレットの活用や授業の高度化をどう成し遂げるかといった課題が目白押しである。今回の評価をバネにして、来年度、新たな課題に挑戦していきたい。

令和2年度 生徒学校アンケート《六年制》結果のまとめ(「思う」と「やや思う」の割合)

令和2年12月 1日実施

NO	質 問 項 目	H28	H29	H30	R元	R2	平均
A	よくわかる授業で学力がついてきた。	73%	60%	66%	74%	93%	73%
B	生徒指導が徹底され、落ち着いた学校生活を送れている。	77%	74%	58%	70%	93%	74%
C	学校の進路指導を信頼している。	78%	71%	68%	74%	93%	77%
D	クラブ活動を通して学ぶことが多い。	67%	58%	68%	73%	78%	69%
E	学校行事の盛んな学校である。	78%	70%	72%	77%	81%	76%
F	挨拶をよくするようになった。	74%	68%	68%	73%	88%	74%
G	マナーや学校のルールを大切にしている。	90%	84%	83%	89%	97%	89%
H	家庭学習の時間が増え、学習の習慣が身についてきた。	66%	55%	57%	79%	92%	70%
I	ボランティア活動には積極的に参加している。	33%	27%	38%	47%	43%	38%
J	学校に行くことは楽しい。	66%	73%	55%	62%	69%	65%
K	学校の施設・設備は整っている。	55%	43%	49%	55%	54%	51%
L	先生方は生徒に対して適切な対応をしている。	79%	73%	65%	68%	87%	74%
M	学校のホームページはよく見る。	21%	20%	21%	16%	28%	21%
N	学校の連絡文書は必ず保護者に渡すようにしている。	84%	83%	79%	92%	97%	87%
		67%	61%	61%	68%	78%	67%

評価分析

好意的評価の平均値は78%に達し、付中とほぼ並んだ。昨年は付中に比べ10%も低かったが、一気に改善が進み、生徒はここ数年で最も落ち着きのある学校生活を送れていると言える。中でも、Aの授業、Bの生徒指導、Cの進路指導で、そろって93%の高い評価となったことは注目に値する。この点からだけでも、六年制の充実ぶりがうかがえる。この結果に安住しないよう、来年度以降、付中同様、総括の評価対象を「思う」だけに絞って、もっと厳しい目で反省し、改善につなげていけるようにしたい。

FやGの学校生活の過ごしやすさについては、もはや言うことはないが、Hの自学自習が昨年あたりから急上昇してきたことは、本当に喜ばしいことである。これは、今回、付中がHの評価を逆に下げてしまったことを考えあわせてみれば、なおさらその意味はおおきい。ずっと懸案事項であった六年制1、2年生の家庭学習量の向上が進んでいると願いたい。

Kの施設・設備については、付中で進む個人用タブレットが高校課程に普及してないことへの不満の現れと見て取れる。一方、この点、保護者の評価が以外に高いのは、保護者自身が身近で不満を感じる機会が少ないからだろう。いずれにせよ、来年度からICT化は一気に進むので、どのくらい評価が変わるか注目しておきたい。